

令和4年度
学校だより

令和4年
10月4日

しおかぜ

佐渡市立
高千小学校

「思いやりと信念をもって根張れる子」を実現を目指す学校

No. 7

子どもは頑張っています！大人は？

校長 白澤 道夫

2学期が始まってから1ヶ月が過ぎました。朝晩の気温が下がったとはいえ、まだまだ日差しの強い日々が続きます。今後も感染症対策と共に熱中症対策も継続していきます。

さて、先月は「マラソン大会」（加えて6年生は陸上大会）、そして「しおかぜ防災キャンプ」等、大きな行事・活動を行いました。

今回は、先日行った「しおかぜ防災キャンプ」を取り上げます。ご存知のとおり、この活動は、「登校直後に大地震が発生した。子どもたち（と職員）で一日を安全に過ごさなければならない。」との想定のもと、計画段階から6年生との打合せを重ね、当日を迎えました。一日の日程は以下のとおりです。

8時20分頃	地震発生 → グラウンドに避難 → 人員確認後「防災班」で待機
8時30分頃	防災班ごとに、グラウンドに避難所（テント）を設営
9時30分頃	ライフライン（火気、飲料水）の確保
10時20分頃	食事の準備（献立…ツナカレー、サラダ、デザート） → 昼食、後片付け
13時15分頃	防災グッズ作成（新聞紙と段ボールのスリッパ） → 実際に使用
14時35分頃	東日本大震災で被災した方からの講話（助言を含む）
15時10分頃	各防災班で反省 → 校長の話（各防災班長の話を含む）

活動の大半を子どもたちに任せたことで、様々なトラブルが起きる中、各班共に、学年は関係なく「自分の命は自分で守る」意識を維持したまま、互いに声を掛け合い、協力しながら一日の活動を進めました。（この姿が、実に素晴らしかったのです。）

「しおかぜ防災キャンプ」に限らず、当校の「主役」である子どもたちは、個々の状況に応じて、本当によく頑張っています。本気で頑張る姿は、当校の職員を含め、保護者や地域の皆様等、見ている大人に「さわやかな感動」を呼びます。（加えて、子どもたちが頑張る姿を共有できたことについて、感謝の気持ちを伝えてくれる大人もいます。）

このような時、いつも私は考えます。

「主役」で頑張る子どもたちに、私たち大人は何ができるのだろうか と。

私も子どもがいる親の一人ですが、子どもには「評価者」ではなく「応援者」であるべきと考えています。（教員としても、業務上の「評価」はありますが、根本は同じです。）

「評価者」は、物事の善し悪しを根拠をもとに判断します。

「応援者」は、相手の目標に合わせて、問い続け、叱咤激励し、提案・助言します。

可能性の塊である子どもたちについて、評価者として（だと思いますが）「〇〇だ。」となぜ言い切れるのか、この立場になった今でも私には分かりません。（むしろ可能性を開かず考えだとすら考えています。）

職員をはじめ、子どもたちにかかわる全ての大人が「応援者」として、子どもと正に向き合い、信じ切るからこそ、未来を子どもたちに託す「大人の頑張り」だと考えます。